

# 教育センター通信

## ほど 火床の火の心を紡ぐ

第2号（通算第8号）  
平成26年6月2日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



【上段左から】  
○第7回小中一貫教育推進委員会（14日）  
○第1回マネジメント研修（20日）  
○木工用工具学習（第三中、20日）  
【下段左から】  
○竹とんぼ作り（森町小、22日）  
○デジタル教科書活用研修会・電子  
黒板活用研修会（22日）

## 学ぶ意欲を育てる

小中一貫教育推進課長 樋山 利浩

各学校では小中一貫教育の視点でさらに教育活動を見直し、教育課題解決を図っているところと推察いたします。特に、小中一貫教育9年間を通して育てたい自己有用感、人間関係づくりの能力、規範意識などの社会性や豊かな心の育成は子どもの将来の幸せにつながる人間の根っこにあたる部分です。子どもたちの幸せを願い、日々の教育活動の中で愛情深くはぐくんでくださっていることに敬意を表します。さらに、将来の夢や希望をかなえる基礎となる学力を確実に身につけさせたいと学習指導に専念して下さっていることに感謝いたします。

小中一貫教育9年間の学びを通して育てたい力、子どもたちに身につけて欲しい力の一つに、これからの社会を力強く生きていくために必要となる「学び続けていく意欲」があります。少しぐらいの困難や、1度や2度の挫折にも、へこたれずに立ち向かう意欲や姿勢をもたせたいものです。

さて、NHKの朝の連続ドラマ「花子とアン」が高視聴率とのこと。何故視聴者の共感を得ているのか、毎日テレビにかじりついている家人に尋ねたところ、主人公の明るく前向きで意欲的な姿勢、困難を乗り越え夢を叶えていくがんばる姿に引き込まれるとのことでした。明治の時代、裕福ではない家庭環境から、幼くして家族から離れてでも「もっと学びたい」という意欲。無理をしても子どもの才能を伸ばしたいという親心。主人公の「夢見る力」が周りを動かしたのです。このように、明日を信じ未来を切り拓く意欲はどうしたらもてるのでしょうか。それは、「わかるって楽しい」という実感。「ちょっとがんばれば自分ではできる」という自信。「できた」という成功体験。これらが、「もっと知りたい、わかりたい」と挑戦する意欲につながっていくと、このドラマ、「赤毛のアン」を翻訳した村岡花子さんの半生は教えてくれているように思えるのです。

小中一貫教育9年間を通して、小中教職員が協働してやるべきことは、子どもたちの学びの履歴（子どもたちの夢）を引き継ぎながら、自らの生き方を考えさせる教育活動の充実を図り、明日を「夢見る力」をはぐくむことではないでしょうか。

## 第1回小中一貫教育基礎研修会を開催！～4月30日～



転入・新採用教職員を対象とした標記の会に市内小中学校の教職員116人（小学校79人、中学校37人）が参加し、三条市が進める小中一貫教育について理解を深めました。昨年に引き続き、國定市長が「①組織人たれ！②三条市の教育を好きになる努力をしてほしい！」の2点について講話を行いました。①では、三条市に勤務する教職員は自分の考えがどうであれ、「三条市の教育方針」を背負った立場であるという自覚をもって学校教育を進めてほしいことを強調されました。②では、三条市に異動してきたことを前向きに受け止め、“素晴らしい特色の

のある教育行政をしている三条市に心底惚れ込み、頑張る“という決意をもつことを求めました。

その後、担当の小池和秀指導主事が、三条市が推進する小中一貫教育の概略を、①小中一貫教育へ向けての背景②三条市の子どもの実態③小中一貫教育導入までの経緯④三条市の小中一貫教育のよさと特徴⑤取組例⑥これまでの成果と課題 の6点にわたって説明しました。

**上記①～⑥を含めた「三条市の取組」の様子等は、三条市のホームページに「小中一貫教育 PR 動画」（約18分）がアップされていますので、ぜひご覧ください。**

【参加者のアンケートより】 ※紙面の都合で、一部省略・編集しています。ご容赦ください。

- ・生まれ育った三条市、子どもたちのために「チーム三条」の一員として全力でがんばります。市長の「小中一貫教育とは小中職員の思いやり教育である」という言葉が印象に残りました。
- ・成果と課題が示されていましたが、課題をどのように解決していけばよいのか、いくのか、市としての考え方も詳しくお聞きしたいです。（時間がなく、さらりと流れたので）
- ・本日の研修を受けて、自校がどのような取組をしているのか、自分は何ができるのかと考えるきっかけになりました。2回目では、より詳しい内容が分かるとのこと、楽しみにしています。また、それまでに、自分にできることを実践していきたいです。

## 第1回マネジメント研修会を開催！～5月20日～

推進リーダー、コーディネーター対象の標記の会に、今年度は、県内で小中一貫教育を推進している皆様にも声をおかけしました。その結果、十日町市教委嘱託指導主事、燕市立吉田中教諭の参加を得て小中一貫教育の取組のアイデアについて情報交換しました。

課題別グループ協議では、①カリキュラムの活用と改善②交流活動の充実③乗り入れ授業の充実④中学校区合同研修会の充実⑤全職員が参画できる組織づくり、に分かれて協議しました。限られた時間でしたが、推進する喜びや悩みなど本音が飛び交う熱い協議になりました。



【協議後の報告から】 “参考になったものだけを簡潔に述べる”という報告形式での発表でした！

- ① “カリキュラムはやはり、使った者勝ち！” 中学校区の留意点、9年間の学びにおける本単元の位置等指導に役立つものばかり。教職員が目を通すためにも、学年に1冊配布したらどうか。
- ② 本成寺中区では日常活動の中でできる子ができることをやっている（少人数ではあるが）。交流が増えれば教職員の負担増になるのも事実。だからこそ当事者意識をもってやるのが大事である。
- ③ 乗り入れ授業を何時間やったかではなく、どんな効果を上げたかを大切にしたい。週1回位置付けて実施（第二中区）、校内研修でペアを作り授業実践（第一中区）などの取組を参考にしたい。  
“費用対効果”には現れないもの（温かさ！温もり！）を大切にしていく必要がある。
- ④ 指導案検討会に小中の教職員が参加し意見を交し合う中で、授業観・指導観を学び合える。それが日常の授業の変化につながる。そういう意味で小中合同教科部会が大切になると思う。
- ⑤ 特定の人だけが忙しい組織ではいけない。教職員一人一人の意識向上には話し合いの場が必要！時間の確保が喫緊の課題である。



# 各学校区における小中一貫教育の紹介 ～その1～

## 栄中学校区



5月1日、栄中学校を会場に「第1回栄中学校区小中一貫教育推進会議」が開催されました。全体会では、横堀会長が「今年度から小中学校講師を週1回小学校に派遣する。乗り入れ授業等に大いに活用してほしい。今行っている活動を小中一貫教育の視点から見直してほしい。特に中期（小5～中1）に力を入れて小中一貫教育を推進していきたい。」と抱負を述べました。続いて大滝推進リーダーが昨年度の取組の成果と課題、グランドデザイン、今年度の推進組織の3点を説明し、それを受けて各部の部長が今年度の取組概要の説明を行いました。

その後、3つの係会（豊かな心係、分かる授業係、健康・体力係）に分かれ、今年度の活動計画について協議しました。どの部会でも「それぞれの活動には意味がある。目指す児童・生徒像を明確にして取り組もう」等熱心な協議が行われました。

【平成26年度の主な活動】

- ・中学校区訪問 栄中 5/28（火）大面小 9/29（月）
- ・ジュニアリーダー研修 6/18（水）19（木）
- ・小中一貫教育推進会議（教職員全員）No.2 8/25（月）
- ・あいさつ運動 9/29（月）～10/3（金）

- ・いじめ見逃しゼロスクール集会 10/9（木）
- ・フラワーロード活動 10/21（火）
- ・栄中3年合唱発表 10/30（木）
- ・栄中2年生総合発表会&小学校6年生授業体験 11/28（金）
- ・入学説明会&部活動体験 1/22（木）
- ・小中一貫教育活動報告会 2/10（火）
- ・小中一貫教育推進協議会 5/19、11/28、2/26

## 第四中学校区

5月21日、第四中を会場に「第四中学校区小中一貫教育共同授業・共同活動部会（全体研修会）」が開催されました。全体会では、戸田推進協議会長が「全面実施から1年経ち、少しずつ成果が表れ

始めている。“実施→振り返り→改善・作成→”のサイクルを大切に、小中一貫教育を推進していきたい。」と抱負を述べました。続いて、第四中区担当の丸山教育センター指導主事が「三条市共通の小中一貫教育に係る点検・評価アンケート」を、成果・課題・第四中区の特徴の順に説明しました。

その後、3つの部会（学力向上部、豊かな心の育成部、健康・体力向上部）に分かれ、今年度の活動計画について協議しました。3部会に共通していたのは、「部員が一人一役を担うことで小中一貫教育に対する参画意識を一層高めようとした。」ことでした。これは「今までは主担当（部長、各校代表）に仕事が集中して負担が大きい反面、他の部員は活動が少なく、関心に差があった。」という昨年度の反省を踏まえたものです。これを受け、学力向上部では①学びのガイド②家庭学習③カリキュラム④乗り入れ授業⑤研修会 の5つの活動に各校担当者記載欄を設けてありました。



“第四中区全員で小中一貫教育を推進し、目指す子どもの姿を追求しよう”という姿勢が伺えました。

【平成26年度の主な取組】

- ・中学校区訪問 旭小 6/18（水） 第四中 11/7（金）
- ・第2回全体研修会 2/5（木）
- ・陸上合同練習 7/2（水）3/（木）
- ・小6陸現地合同練習 7/8（火）
- ・第四中区拡大児童生徒育成委員会・懇親会 7/14（月）
- ・小中教科研修会 8/1（金）
- ・小6児童交流会 9/12（金）
- ・小6四中激励会・部活動見学会 9/19（金）
- ・学区合同防災訓練 10/15（水）
- ・深めよう絆集会 11/27（木）
- ・ブリッジスクール 2/19（木）
- ・あいさつ運動 第1回：6/9～6/13 第2回：9/9～12 第3回：各校単独開催
- ・生活向上週間 11月
- ・小中一貫教育推進協議会 6/10、11/28 2/24

## 第7回 小中一貫教育推進委員会

標記の会が5月14日に栄庁舎で開催されました。教職員の人事異動、自治会長の交代等に伴い、8名の委員が交代しました。3月末に長岡市に転出した西山副委員長の後任に遠藤第一中学校長が選出されました。

協議事項は以下の4点でした。(紙面の関係で概略のみ。)

### 1 「平成25年度三条市共通の小中一貫教育の実施に係る点検・評価実施アンケートの総括」について

- ①乗り入れ授業の充実
  - ・年間を通じた計画的な実施。
  - ・学習参観時に保護者に公開。
- ②保護者・地域住民への情報提供の機会増加
  - ・学習参観等保護者が集まる機会を再確認し、その折に情報発信を行う。
  - ・小中合同授業参観(公開)の実施。←保護者の負担軽減
  - ・学校ホームページの有効活用(日記形式の情報提供等)そのため「作成と管理の研修会」を実施する。
  - ・地域との協業(行事への参画や協働作業)や子どもを軸にした活動の推進 “教職員に負担をかけずに!”
- ③本アンケート趣旨の再確認
  - ・数値の背景にある(隠れた)課題の認識・共通理解
  - ・地域へのアンケート実施(予定)。
- ④PDCAサイクルによる分析と課題解決
  - ・アンケートを学校評価に反映させる。
  - ・12月に実施・回収、データの学校への早期提供。



遠藤副委員長、雲尾委員長



- 2 平成27年度「小中一貫教育全国サミット」に向けた取組。→正式決定した時点で詳細を検討。平成26年度小中一貫教育フォーラム in 三条。11月21日(金)14時~16時45分
  - ・実践発表 第一中学校区、大島中学校区、栄中学校区(いずれも文部科学省研究委託協力校)
  - ・紙上発表 上記以外の6中学校区。
- 3 文部科学省委託事業「小中一貫教育における教育委員会における点検・評価 及び点検評価結果の活用に関する調査研究」について
- 4 平成26年度教職員研修、講座開設の構想について

### 教育の窓

～随時掲載します～

新採用は分校の5年生を担当しました。私の拙い授業に不平不満も言わず真面目に取り組む純朴な子どもたちでした。研究授業は忘れもしない“サロマ湖の変化”でした。寝る間も惜しんで教材研究を行い、前日にリハーサル(発問、板書計画等)もして、自信をもって臨んだ授業でした。

結果は散々でした。45分間、聞こえるのは教師の声ばかり。子どもの反応がないのにしびれを切らした私は、発問を言い換えました。それが混乱に拍車をかけました。子どもたちは私に答えようと必死に考えていたそうです。(事後検討会で先輩の先生から言われるまで分かりませんでした。)授業中、「何で発言してくれないんだ!」と子どもを責めていました。ダメなのは子どもたちの心の声に気付かず、独りよがりの授業をしていた私でした。「授業って本当に怖い!」と思いました。

指導案や研究収録は7.13水害で流れてしまったので、授業の詳細は思い出せませんが、冷や汗がたらたら流れたこと、20分を過ぎた頃から脱走したくなったことを今でも鮮明に覚えています。

### 【連絡とお願い】

- ・6月13日~26日、教科書展示会を栄庁舎3階教科書センターで開催します。栄庁舎での各種会合や研修会の折にお立ち寄りください。同じ期間、市立図書館でも開催します。
- ・特別支援教育講演会を8月8日(金)午後、体育文化センターで開催します。